

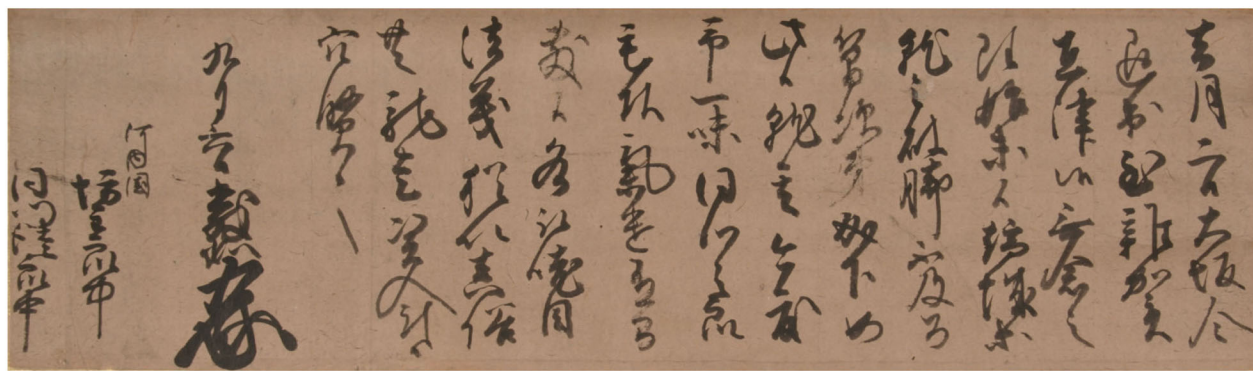
# たじひのだより



松原市文化財情報誌 No.13  
文化財指定記念特集号

平成25年12月20日、新たに市指定有形文化財を指定

## えい きゆう じ し ほん ぼく しよ きよう に よし しょう にん しょう そく 栄久寺紙本墨書教如上人消息

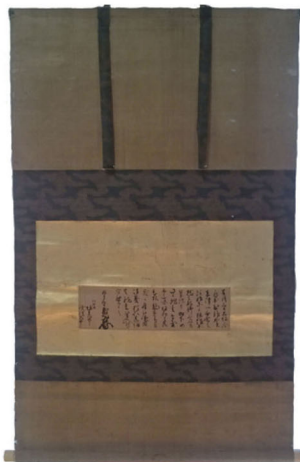


※手紙の大きさは縦10.8cm×横38cm

去月二日大坂令  
退出至雑賀  
在津候無念之  
雖始末候端城等  
就令破脚不及了  
簡次第成下如  
此候就其今度  
予一味同心之衆  
毛頭氣遣有間  
敷候各被嗜自  
法義猶以真俗  
共馳走憑入計候  
穴賢く

九月六日 教如(花押)

河内国  
坊主衆中  
同門徒衆中



### Q. 「教如消息」とは？

浄土真宗の僧で、のち東本願寺の開祖となる教如が本願寺教団の門徒たちに送った手紙です。

### Q. いつの時代のもの？

今からおよそ430年前、天正8年(1580)のものです。織田信長が天下統一のため戦いを繰り返した安土桃山時代に書かれました。なお、日付の「九月六日」は陰暦で、現在の10月14日にあたります。

### Q. どういう内容が書かれているの？

大坂本願寺が織田信長との11年にわたる戦いに敗れた無念や教如の現在の境遇、そして門徒たちへの気遣いの言葉などが書かれています。

☞ 詳しくは2～3ページへ

### [読み下し文]

去月二日、大坂退出せしめ雑賀に至り、在津候。無念の始末候といえども、端城など破却(原文では「破脚」)せしむるにつき、簡に及ばざる次第成し下し、かくの如く候。それにつき、今度予一味同心の衆、毛頭氣遣い有るまじく候。各自ら法義を嗜まれ、猶もって真俗とも憑み入るばかり候。あなかしこ、あなかしこ。

九月六日 教如

河内国坊主衆中、同門徒衆中

### [意味]

去る八月二日、大坂本願寺を退き雑賀の港の辺りに滞在しています。無念の成行きにはなってしまったけれども、端城などを破却させたことはどうしようもないことで、このような事態になってしまいました。そのことについて、私と一味同心の皆さんは氣遣い無用です。各人が真宗の教えを常に心がけるなら、なおのこと出家・在家ともに今後も世話をお願いするばかりです。

※端城＝「はじょう」とも。本拠である根城を守るためにその外側に築かれた城。

## 「教如上人消息」について

元亀元年(1570)より織田信長と戦ってきた本願寺門主(第11世)顕如は和睦を受け入れ、天正8年(1580)4月に大坂本願寺を退きます。この時反対した教如は父の顕如から勘当(義絶)されますが、それでも大坂本願寺で側近たちと籠城を続けます。しかし、ついに大坂本願寺を明け渡すことを決め、8月2日に退去しました。

その後、教如は父に会うため鷲森(和歌山市)に行きますが勘当は解かれず、天正10年(1582)6月2日に起こった本能寺の変で織田信長が殺されるまでの約2年間流浪の旅を続けました。



今回指定した「教如上人消息」は、教如(当時23歳)が滞在先の雑賀(和歌山市)から河内国の門徒に送ったもので、大坂本願寺を退去した1か月後に書かれています。ほぼ同じ内容のものは他に5点見つかっています(下図・下表)。教如は一生のうち、多くの消息を各地に送りましたが、大阪府内では数点が見つかっているのみで、青年時代に河内国に宛てたものは松原市の栄久寺のもの以外はまだ見つかっておらず、貴重です。

栄久寺には、昭和16年(1931)に教如ゆかりの地として「教如上人遺跡」の石碑が建立され(右頁写真)、毎年4月に檀家の方たちによって「教如上人消息」を掲げて法要(教如上人御書会ならびに永代経法要)が営まれています。

日付	消息の宛て先	現在の所在地
① 8月15日	江州北郡坊主衆中・同門徒衆中	滋賀県長浜市
② 8月16日	三浦坊主衆中・同門徒衆中	滋賀県長浜市
③ 8月16日	安養寺	岐阜県郡上市
④ 8月19日	ヒノ、マキ坊主衆中・同門徒衆中	滋賀県蒲生郡日野町
⑤ 8月19日	不明	愛知県稲沢市
⑥ 9月6日	河内国坊主衆中・同門徒衆中	大阪府松原市

※表の日付はいずれも旧暦

栄久寺所蔵教如消息と同じ内容の消息の分布

## 教如の生涯について

教如は永禄元年(1558)9月16日に本願寺第11世顕如の長男として生まれ、13歳の元亀元年(1570)2月16日に得度(僧になること)しました。同じ年の9月12日に約11年間続く織田信長との「石山合戦」が始まり、彼の青春は戦乱とともに過ぎ去っていききました。

石山合戦で勘当され流浪の旅に出た教如でしたが、信長の死により父・顕如の勘当は解かれ、豊臣秀吉の時代となります。

顕如が亡くなった後、文禄元年(1592)に教如は本願寺第12世となります。しかし、実母如春尼が「教如の弟准如に継がせること」という顕如の遺言状があると秀吉に申し出たため、秀吉は10年後に准如に譲るよう命じます。これに教如の側近たちが異議を唱えたため、秀吉は激怒し教如はすぐ

に門主の座を譲ることになってしまいました。

秀吉の死後、徳川家康が江戸幕府を開くと、慶長7年(1602)に家康は京都の土地を教如へ寄進し、教如はここに東本願寺を創立しました。この時より本願寺は東西に分派します。

教如は慶長19年(1614)10月5日に57歳でその生涯を閉じました。

激動の時代を、教如はたくましく駆け抜けていったのです。



## 栄久寺について

松原市立部1丁目にある栄久寺は、東本願寺を本山とする真宗大谷派の寺院で、山号を願成山といます。寺伝では天正年間(1573~92)の住持が初代です。開基は不明ですが、同じ立部に法灯を伝えていた観音寺(真言宗)が転宗し、現在地に移ったという説もあります。

境内には本堂・庫裏・薬医門などがあり、寺観が整ったのは17世紀中頃と考えられます。寺に残る資料より、本堂が慶安4年(1651)に建立されたのち、文政10年(1827)再建に着手し、天保7年(1836)に完成したことがわかっています。今の本堂は平成2年(1990)に修復されましたが、内陣

と外陣は天保7年(1836)当時のものです。内陣には、幕末に活躍した大坂の彫物師「相野伊兵衛直之」作の欄間がはめ込まれています。



栄久寺の山門

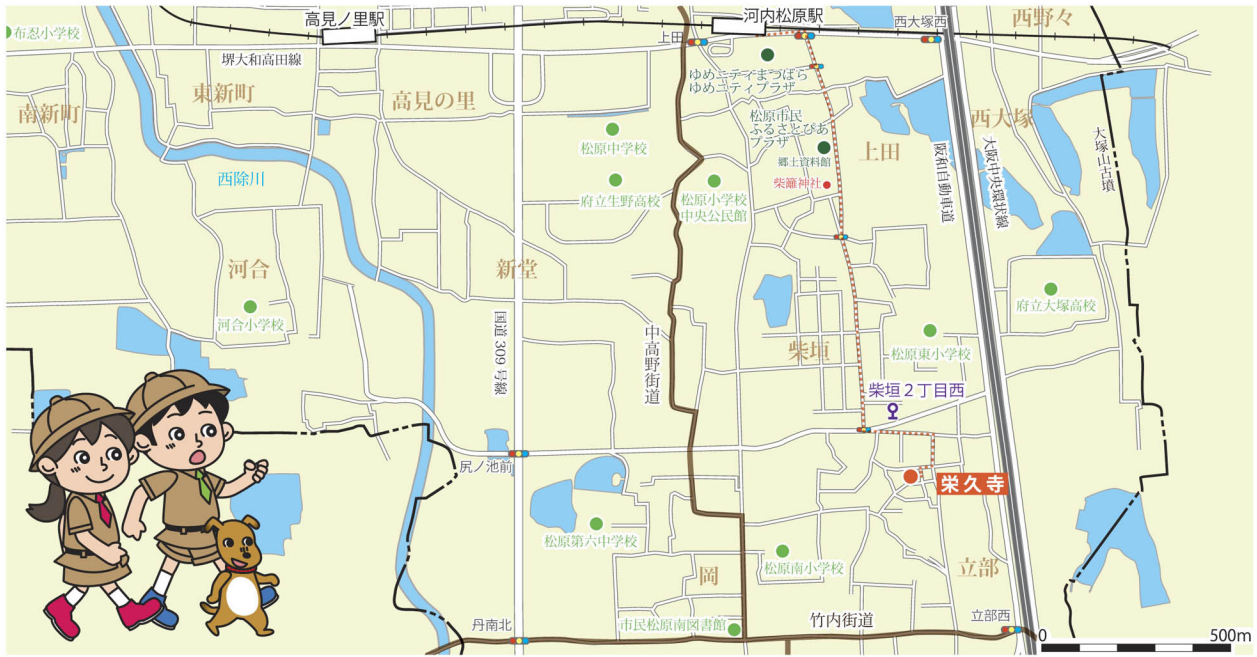


栄久寺の本堂



境内にある「教如上人遺跡」の石碑

教如上人350回忌に先駆け昭和16年に建立されたもので、文字は東本願寺第23世彰如により書かれたものである。



【栄久寺へのアクセス】近鉄南大阪線河内松原駅下車。南方向へ徒歩約20分(1.5km)。※駐車場はありません  
市内循環バスぐるりん号を利用する場合は、東ルートの柴垣2丁目西で下車。  
見学については教育委員会地域教育振興課に問い合わせください。

## みて・きいて・ふれて

昨年11月の松原中学校フェスタでは、校区内の文化財の展示や江戸時代から現代の古銭や記念硬貨の模様を色鉛筆で写し取る体験をしてもらいました。

平成26年1月26日には第60回文化財防火デーにあわせて松原市消防本部・消防署による防火訓練が別所の熱田神社でおこなわれました。神社の関係者を始め地元消防団の方々と一緒に文化財の持ち出しや初期消火・放水訓練が行われ、地域の文化財を守るため皆さん真剣な面持ちで取り組まれました。



📷 熱田神社で行われた防火訓練の様子



### 松原市内の文化財について お知りになりたい方へ



松原市  
マスコットキャラクター  
マッキー

- ホームページ (ホーム画面の「文化・スポーツ」をクリック)  
<http://www.city.matsubara.osaka.jp>
- 文化財の展示／図書の販売  
ふるさとびあプラザ1F・郷土資料館 (一般財団法人松原市文化情報振興事業団)  
〒580-0016 大阪府松原市上田7丁目11番19号 電話 072-336-6800
- 埋蔵文化財に関する手続き／文化財に関する相談／図書の販売など  
松原市役所5F・教育委員会地域教育振興課  
〒580-8501 大阪府松原市阿保1丁目1番1号  
【電話】072-334-1550(代) / 【FAX】072-332-7720(教育委員会事務局)

編集 松原市教育委員会事務局 地域教育振興課 史文化財係  
発行日 2014年3月31日  
印刷 株式会社高速オフセット